

ANNOUNCEMENTS

名誉会員の訃報

本学会名誉会員 Jérôme Lejeune 先生 (67 歳) が、1994 年 4 月 3 日、肺癌にて死去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。(理事長 三輪史朗)

名誉会員 半田順俊氏の逝去を悼む

本会の名誉会員 和歌山県立医科大学名誉教授 半田順俊氏がその 80 歳の誕生日を目前にして 1993 年 8 月 8 日に逝去された。享年 79 歳であった。

本会の設立は昭和 29 年 (1954) であるが、それに先立って故満田久敏 (大阪医科大学名誉教授)、故村上氏廣 (名古屋大学名誉教授、愛知県心身障害者コロニー名誉総長) 両氏と小生の 3 人が数年にわたって学会設立の必要性を検討し、設立の準備をしてきた。昭和 28 年に広島で開催された日本遺伝学会を機に発起人会を開いたが、それに故駒井 卓先生の推薦で藤木典生氏らと共に参加され、本会の設立後は評議員あるいは理事として長く本会の発展に寄与され、昭和 56 年に名誉会員に推された。同年日本解剖学会の名誉会員にも推されている。

昭和 16 年 (1941) に金沢医科大学 (現金沢大学医学部) を卒業、翌年から軍医として従軍され、かの激戦地ラバウルから復員後の昭和 23 年 (1948) に和歌山県立医科大学の前身である和歌山県立医学専門学校に奉職、昭和 56 年 3 月まで解剖学と人類遺伝学の研究と教育に当たられた。

人類遺伝学との出会いは、故古武弥四郎学長が医学における人類遺伝学の重要性を痛感され、昭和 29 年に国立遺伝学研究所への国内留学を命じられたことに始まる。帰任後、解剖学の研究・教育と同時に人類遺伝学の講義を開始すると共に研究も始められた。

研究活動を分けると、解剖学の分野では初期は神経解剖学の分野で新たな発見を、後には組織化学、細胞化学の手法を導入した神経分泌の研究へと発展した。人類遺伝学の分野では、主として集団遺伝学的調査、研究に関心を寄せ、とくに著名な研究としては Pelger-Huet の核異常 (中性好性白血球の核異常)、紀伊半島の筋萎縮性側索硬化症があり、他にアルカプトン尿症、フェニルケトン尿症、黒血症などがある。また、先天性東状網膜剝離、家族性慢性天疱瘡などの家系分析、G-6-PD の量的変動の遺伝的解析など広範囲にわたる研究を行ない、幾多の成果を挙げられた。

これらは多数の血液資料を集め、また丹念に家系調査を行なわなくてはならない。研究費の乏しい時代にこれらが進められたのは、多数の解剖学教室の関係者や学生などの絶大な協力があってこそその成果である。それを可能にしたのは同氏の円満な人柄によるものであったことは特記されてよい。

また、かなり以前から人類遺伝学の応用として、遺伝相談に関心を寄せ、積極的に相談に応じてきた。本学会が遺伝相談の実態と将来の対応を検討する目的で、昭和 47 年に遺伝相談ネットワーク委員会を設立した際にはその委員長として諸種の調査や計画の立案に関わり、将来を見通した報告書を提出した。

一方、昭和 49 年度からは厚生省の心身障害発生予防研究の一端として、遺伝相談に関する研究が行なわれることになり、故松田健史氏 (富山医科薬科大学) や大倉と共に多方面にわたる調査・解析

を行ない、その成果は極めて短期間に厚生省の認めるところとなり、昭和 52 年度から家族計画特別相談の名で遺伝相談が新規に事業化されることになり、日本家族計画協会に遺伝相談センターが設立され、国内各地域における遺伝相談の普及に貢献することになった。別して医師の遺伝相談カウンセラーの養成ならびに地域遺伝相談の担い手としての看護職、とくに保健婦への知識の普及に力をそそぎ、全国に多くの人材を広める努力を続けられた。健康を害されるまでは設立以来 10 年余にわたって同センターの所長も務められた。

昭和 39 年には第 9 回日本人類遺伝学会大会を主催され、わが国の誇る発見である無カタラーゼ血液症について、生化学、生理学、病理学、臨床、遺伝学、集団遺伝学、分子遺伝学などの広い見地から極めて学際的、包括的かつ集約されたシンポジウムを開催されたのである。

和歌山県立医科大学を昭和 56 年に退職されると同時に同大学の名誉教授の称号を授与され、また請われて和歌山県赤十字血液センターの所長として同県の輸血事業の活性化に務められ、大きな貢献をされた。

ほぼ 40 年におよぶ公私にわたる交誼から、氏は教育者、研究者ではあったがその根底に文学的素養、宗教的とくに仏教的な深い教養があり、人生に哲学、倫理感をもち、死生観を明確にしておられたことは、科学的知識一辺倒の今日的研究者、学者とは違っていた。このことの故に意識的に科学者の埒外におこうとする人たちもいたが、生命倫理の強く叫ばれる今日どちらが求められる科学者像であり、医師像であるかは分明であろう。

母子保健に対する貢献によって、厚生大臣表彰、和歌山県県政功労者表彰を受けられ、昭和 63 年に勲三等旭日中綬章の叙勲、逝去と同時に正四位を追贈された。

迦陵頻伽の舞い遊ぶ彼岸で蓮の台に安らかな眠りをえられている故人の冥福を祈り、心から哀悼の意を捧げる。

(大倉興司)

日本学術会議だより №.34

第16期最初の総会開催される

平成6年8月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議の第16期が平成6年7月22日(金)からスタートし、7月25日から7月27日までの3日間、第119回総会が開催されました。今回の日本学術会議だよりでは、総会の概要等についてお知らせします。

日本学術会議第119回総会報告

平成6年7月22日から、第16期が開始されましたが、この第16期会員による最初の総会である、日本学術会議第119回総会が、7月25日から27日までの3日間にわたって開催されました。

初日(25日)の午前は、辞令交付式が、総理大臣官邸ホールで行われ、210名の会員のうち海外出張中等の22名を除く188名の会員が出席しました。式は、村山内閣総理大臣、五十嵐内閣官房長官、石原官房副長官、文田総理府次長等の出席を得て行われ、第1部から第7部までの全会員の名前が読み上げられた後、会員を代表して最年長である中田易直第1部会員が、村山内閣総理大臣から辞令を受け取りました。この後、村山内閣総理大臣が「会員の皆様には独創性豊かな学術研究の発展等のため、総合的観点に立って学術研究に係わる諸問題の解決に御尽力いただきたい」とあいさつし、これに応じて、中田易直第1部会員が「微力ながら全力を尽くし、重要な職責を全うし、国民の期待に応えたい」とあいさつしました。午後は、日本学術会議講堂において、総会が開催され、会長、副会長(2名)の互選が行われました。その結果、会長には、伊藤正男第7部会員が、人文科学部門の副会長には、利谷信義第2部会員が、自然科学部門の副会長には、西島安則第4部会員が、それぞれ選出され、伊藤会長及び利谷副会長(西島副会長は海外出張中)からそれぞれ就任のあいさつを行いました。続いて、各部会が開かれ、各部の部長、副部長及び幹事の選出等が行われました。(第16期の役員については、別掲を参照)

2日目(26日)は、午前10時から総会が開催され、近藤前会長が海外出張中のため代理として川田前副会長が第15期の総括的な活動報告を行い、続いて、会員推薦管理会報告として、久保亮五委員長代理として高岡事務総長が、第16期会員の推薦を決定するまでの経過報告を行いました。引き続き、事務総長から第16期会員対して実施した「第16期の日本学術会議が取り組むべき課題について」のアンケートの結果について説明がありました。総会終了後は、各運営審議会附置委員会、各部会、各常置委員会等が開催されました。また、夕方には、総理大臣官邸ホールにおいて、村山内閣総理大臣主催の日本学術会議第16期会員との懇談会が初めて開催されました。懇談会は、村山内閣総理大臣のあいさつで開会し、五十嵐内閣官房長官の発声による乾杯、伊藤会長の答礼のあいさつの後、懇談に入りました。来賓として、与謝野文部大臣、田中科学技術庁長官、吉田農林水産政務次官、藤田日本学士院院長ほか大勢の方が出席され、あふれんばかりの人々で歓談が続き盛会となりました。

3日目(27日)は、午前10時から総会が開会され、会長から「第16期活動計画の作成について」の申合せ案について提案があり、原案どおり可決されました。続いて、第16期の活動計画についての自由討議が行われ、各部長から各部会での意見が披露されるなど活発な発言がありました。総会終了後は、地区会議合同会議、各運営審議会附置委員会、各常置委員会等が行われました。その後、運営審議会が開催され、第16期の活動計画の素案作成のために、運営審議会構成員の中から起草委員を選出し、審議に入りました。

第16期日本学術会議役員

会 長	伊藤 正男 (第7部・生理科学)
	理化学研究所国際 フロンティア研究システム長
副会長	利谷 信義 (第2部・基礎法学)
	お茶の水女子大学 (生活科学) 教授
副会長	西島 安則 (第4部・化学)
	日本ユネスコ国内委員会会長
〔各部役員〕	
第1部 部長	中田 易直 (歴史学)
副部長	戸川 芳郎 (哲学)
幹 事	堀尾 輝久 (教育学)
幹 事	森岡 清美 (社会学)
第2部 部長	中山 和久 (社会法学)
副部長	山口 定 (政治学)
幹 事	兼子 仁 (公法学)
幹 事	山中永之佑 (基礎法学)
第3部 部長	柏崎利之輔 (経済政策)
副部長	岡本 康雄 (経営学)
幹 事	河野 博忠 (経済政策)
幹 事	二神 恭一 (経営学)
第4部 部長	伊達 宗行 (物理科学)
副部長	竹内 郁夫 (生物科学)
幹 事	井口 洋夫 (化学)
幹 事	新藤 静夫 (地質科学)
第5部 部長	内田 盛也 (応用化学)
副部長	大橋 秀雄 (機械工学)
幹 事	増子 昇 (金属工学)
幹 事	松尾 稔 (土木工学)
第6部 部長	志村 博康 (農業工学)
副部長	北村貞太郎 (農業工学)
幹 事	島田 淳子 (家政学)
幹 事	平田 熙 (農芸化学)
第7部 部長	渥美 和彦 (内科系科学)
副部長	金岡 祐一 (薬科学)
幹 事	入江 實 (内科系科学)
幹 事	細田 泰弘 (病理科学)

〔常置委員会〕

第1常置 委員長	利谷 信義 (第2部)
第2常置 委員長	中塚 明 (第1部)
第3常置 委員長	村上 英治 (第1部)
第4常置 委員長	増本 健 (第5部)
第5常置 委員長	山中永之佑 (第2部)
第6常置 委員長	鹿取 廣人 (第1部)
第7常置 委員長	井口 洋夫 (第4部)

(注) カッコ内は、所属部・専門

第16期日本学術会議会員の概要について

この度任命された210人の第16期日本学術会議会員の概要を以下に紹介します。(カッコ内は第15期)

1 性別	男性209人	女性1人		
2 年齢別	45～49歳	1人	50～54歳	3人
	55～59歳	26人	60～64歳	93人
	65～69歳	72人	70～74歳	12人
	75～79歳	1人		
	最年長	75歳 (74歳)		
	最年少	47歳 (54歳)		
	平均年齢	63.6歳 (63.3歳)		

3 勤務機関及び職名別

(1) 大学関係	国立大学	59人
	公立大学	2人
	私立大学	111人
	公私立短期大学	2人
	計	174人
(2) 国立私立試験研究機関・病院等		9人
(3) その他	法人・団体関係	5人
	民間会社	6人
	無職	14人
	その他	2人
	計	27人

4 その他の分類

(1) 前・元・新別	前会員	82人
	元会員	3人
	新会員	125人

(2) 地域別 (居住地)

北海道	3人(5人)
東北	9人(8人)
関東	136人(133人)
中部	14人(19人)
近畿	41人(34人)
中国・四国	3人(5人)
九州・沖縄	4人(6人)

(注) 詳細については、日本学術会議月報7月号を参照

「日本学術会議だより」について御意見、お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291